

G20愛知・名古屋外務大臣会合「高校生との交流事業」

2019年11月22日（金）・23日（土）に「G20（二十カ国・地域）愛知・名古屋外務大臣会合 G20 AICHI-NAGOYA」が名古屋市にて開催されます。

その際に、各国の外務大臣に対して県内高校生代表が提言を行うという交流事業が企画され、日頃より国際理解教育に力を入れている愛知県内の高校4校から、代表生徒12名が参加します。名古屋市立高校の代表として、名東高校から代表生徒3名（国際英語科2年生）が選ばれました。他の3校は、愛知県立時習館高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、中部大学春日丘高等学校です。

代表生徒のみなさんは、夏休みに外務省の出前講座を受講し、4回にわたるグループワークを行います。そこで他校の生徒たちと協力して世界の問題について話し合い、「提言」としてまとめます。さらにまとめた提言を英語に翻訳し、会場で各国外務大臣に発表します。

本校の代表生徒



大野 舞夕 さん



川上 徹力 さん



宮尾 千野 さん

日 程

7月26日（金）オリエンテーション・外務省出前講座（外務省主席事務官・高井芳樹氏）
名古屋都市センター

G20の役割や、2019大阪サミットにおける提言内容について学びました。

8月5日（月）グループワーク①（議長は名東・宮尾さん）名古屋都市センター

各校で考えてきた世界の問題を持ち寄り、「2030年までに実現してほしい世界」像をまとめました。



「異文化理解のある、偏見のない世界」「全ての子どもが平等に、質の高い教育を受けられる世界」「働きやすい、保障がある世界」「経済的な格差のない世界環境のよい世界」の実現にむけて解決すべき現状の課題を挙げていきます。
さらに、ピックアップした課題を分類・整理していきます。

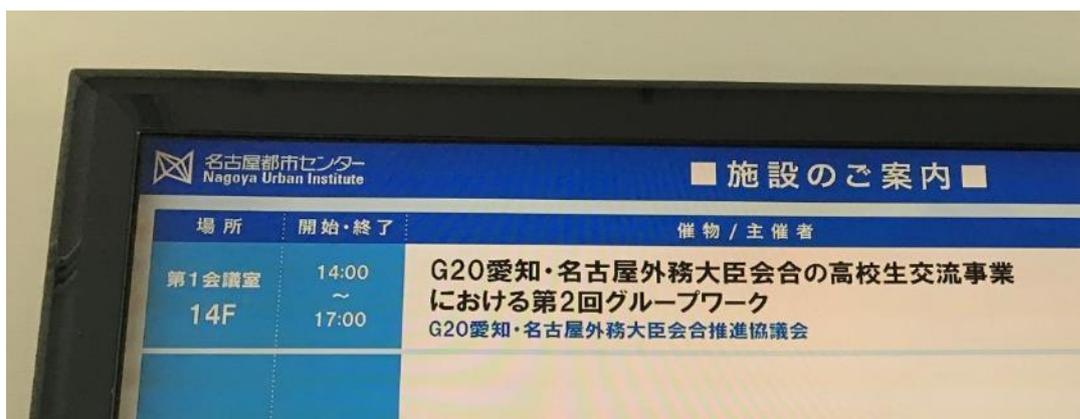


次回までの宿題として、この日の話し合いでの質問事項や疑問点について調べてきます。
なお、議長を務めた宮尾さんは、中日新聞の取材を受けました。
この様子は、8月17日（土）付の中日新聞朝刊市民版でも紹介されました！

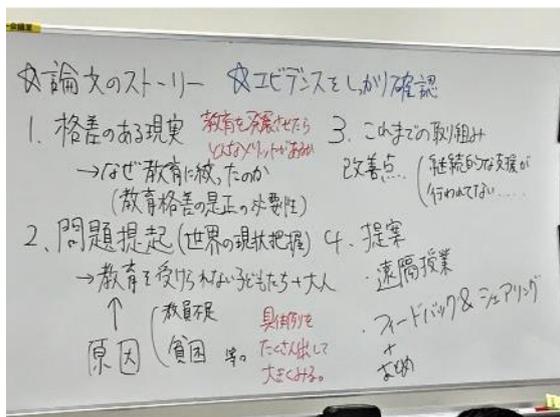


8月17日（土）付中日新聞朝刊「市民版」（中日新聞社許諾済み）

8月16日（金）グループワーク②（議長は名古屋大付属）名古屋都市センター
提言の骨子の作成にとりかかりました。

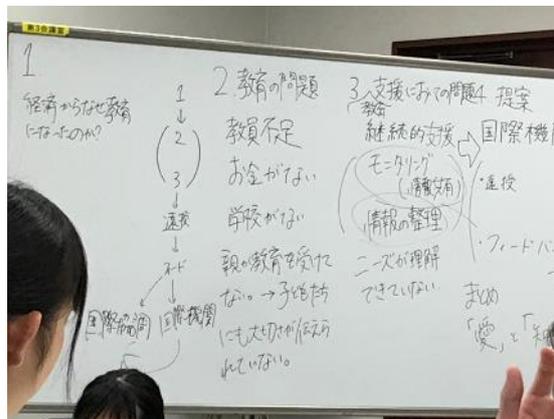


話し合いの中で繰り返し出てきたキーワードは、様々な場面における「格差」の問題でしたが、10分間の提言にまとめるために「教育格差」の視点からまとめていくことにしました。



次回までの宿題として、この日の話し合いの内容を盛り込んだ提言文案を各校で作成します。

8月28日（水）グループワーク③ 提言内容のまとめ（議長は時習館）名古屋都市センター
各校から持ち寄った提言文案4本を全員で読み、共通する部分を中心に骨子を検討しました。



さらにトピックを絞り込むためのブレインストーミングを行います。
ベースにする文案を一つ選び、この日の話し合いの内容を盛り込んで提言文の完成を目指します。
参加者12名の挙手により、名東高校の文案がたたき台として採用されました！

9月29日（日）グループワーク④ 提言文の確認と英訳の役割分担（議長は春日丘）
名古屋都市センター

10月 英文スピーチを作成（各校）
各校から1名ずつ代表でスピーチをする生徒を決定しました。

11月11日（月）提言スピーチのリハーサル
当日の各自の立ち位置や動線を確認しました。

11月11日（月）愛知県知事・名古屋市長表敬訪問 愛知県公館

他校の生徒とともに、大村秀章愛知県知事と河村たかし名古屋市長を表敬訪問しました。
その様子は、11月13日（水）付の各新聞朝刊でも紹介されました！



G20外相会合で提言の高校生 知事と名古屋市長に抱負

名古屋市で二十二、二十三の両日開かれる二十カ国・地域（G20）外相会合で各国の外相に提言をする県内の高校四校の生徒十二人が十一日、県公館を訪れ、大村秀章知事と河村たかし名古屋市長に意気込みを語った。

提言するのは、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定されている時習館高（豊橋市）、名古屋大教育学部付属高（名古屋市）、中部大春日丘高（春日井市）の三校と、国際理解教育を推進している名東高（名古屋市中区）。各校から三人が参加し、七月から提言の内容を練り上げてきた。

当日は「格差の解消に向けた国際協調」をテーマに教育格差解消などについて英語で提言する。県公館では、十二人がそれぞれ抱負を語り、名東高二年の大野舞夕さんは「学校で（外相会合で）テーマとなる『持続可能な開発目標（SDGs）』を学んでいる。私たちの思いを伝える良い機会だ」と話した。

大村知事は「皆さんの提言が外務大臣に届いて、格差のない社会になるといい」とあいさつ。河村市長は英語で「外国の人にはフレンドリーに話し掛けることが大切。先生の言うことに従うのではなく、気楽に思ったことを発言してほしい」と激励した。

（森若菜）

11月13日（水）付中日新聞朝刊16面「県内版」（中日新聞社許諾済み）

11月13日（水）付
朝日新聞朝刊27面
「名古屋・尾張・知多」
（朝日新聞承諾番号
19-4848）
朝日新聞社に無断で転載
することを禁じます。



「教育格差」提言へ G20外相会合で高校生ら

22、23日に名古屋市内で開かれる主要20カ国・地域首脳会議（G20サミット）の外相会合で、各国外相に提言をする県内の高校生らが11日、大村秀章知事と河村たかし名古屋市長を表敬訪問した。生徒12人が抱負を語り、大村知事や河村市長と「Let's not start a war（さあ始めよう。行くぞー）」と意気込んだ。

G20外相会合は、8月に大阪府で開かれた首脳会議（G20サミット）に合わせ開かれる関係閣僚会合の一つ。今回は全ての関係閣僚会合で、開催地の高校生による提言を実施している。愛知県では、県立時習館



（春日井市）、市立名東高（名古屋市名東区）の4校から8人ずつ生徒が参加。8月から話しあい、「格差の解消に向けた国際協調」をテーマに提言をまとめた。

提言では特に、教育格差を取り上げる。時習館高の中山朋美さん（2年）は「児童労働や貧困など、教育にまつわる問題が全ての格差の原因」と考えた。中部大春日丘高の村井健さん（2年）は小学生の時、南アフリカからイギリスに移住し、格差を感じた。「南アフリカでは貧しい村も見えた。生まれる所の違いで差ができる現状を変えたい」

大村知事は「ワンチームで素晴らしいパフォーマンスを見せていただきたい」。河村市長は全て英語で話し「最も大事なのはフレンドリーであること」と激励した。

（江向彰也夏）

11月13日（水）付毎日新聞朝刊23面
「あいち名古屋支局」
（毎日新聞社許諾済み）

G20外相会合
高校生が提言
知事らに抱負

22、23両日に名古屋市内で開かれる主要20カ国・地域（G20）外相

会合で、県内の高校生たちが英語で提言を行う。4校の12人が11日、大村秀章知事と河村たかし名古屋市長を訪れ、抱負を語った。「格差解消に向けた国際協

調」をテーマに、教育の平等について述べる予定という。

高校生は、県立時習館高、名古屋大付属高、中部大春日丘高、名古屋市立名東高から3人ずつ、スーパーグローバルハイスクール指定校などから選ばれた。

提言は2日目の23日に5分間の予定で、12人のうち、各校1人ずつ計4人が代表してリレー方式でスピーチする。8月から4回の会議を重ね、まず日本語で提言書をまとめ、それを英語に翻訳した。

11月15日（金）中日新聞社の取材を受けました。

取材では、主に授業後に行う練習の様子を風景取材していただきました



この取材の様子は、11月21日（金）中日新聞朝刊に掲載されました！

G20 高校生12人、あす提言

名古屋市中開かれる二十カ国・地域（G20）外相会合で、県内の高校生たちが各国の外相の前で国際社会に向けた提言を英語でスピーチする。四校十二人のメンバーが決めたテーマは「教育格差」。先進国と開発途上国の間にある格差をなくそうと、若者の視点で考えた解決策を二十三日の会合で披露する。（森若菜）

「今までになかったアイディアを各国の外相に伝えられるいい機会。僕らのメッセージが伝わるといい」。メンバーの一人、春日井市の中部大春日丘高二年の村井健さん（こし）は意気込んでいる。

村井さんは父親の仕事の関係で小学生まで南アフリカや英国、ポルトガルなどを視察したことがある。南アでは小学生のころ「都会と田舎の差」を調べる学習で、最大都市ヨハネスブルクから郊外のスラムを見に行ったことがある。

「今までになかったアイディアを各国の外相に伝えられるいい機会。僕らのメッセージが伝わるといい」。メンバーの一人、春日井市の中部大春日丘高二年の村井健さん（こし）は意気込んでいる。

「都会と田舎の差」を調べる学習で、最大都市ヨハネスブルクから郊外のスラムを見に行ったことがある。

立ち並ぶ相対的な家を見て「生まれてきた場所での人の人生が変わる。不平等じゃないか」と鮮明に格差を感じた。

海外での経験を踏まえ、従来の「教師派遣」や「学校建設」にとどまらない途上国の支援策をスピーチに盛り込んだ。

提言には時習館高（豊橋市）、名古屋大教育学部付属高（名古屋市中）、名東高（同）の生徒も参加する。

名東高二年の大野舞々さん（こし）はスピーチのトリを担当する。世界ではスウェーデンの十六歳の環境活動家グレタ・トゥンベリさんが注目を集める中、自らも将来を担う世代として世界に発信をする大役をつかんだ。「大人よりもできる」とは少ないけど、このスピーチで少しづつでも人々の意識を変えていきたい」と訴える。

高校生たちの提言について、茂木敏充外相は「みなさんが夏休みから熱心に議論を重ね、準備してくれていると聞いている。G20外相会合の中でも大切なイベントの一つであり、若者らしい斬新な提言を期待している」と語った。

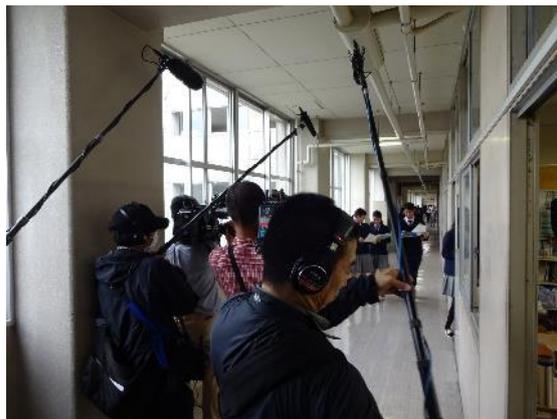
教育格差 10代の目線で

G20外相会合で発表する英語のスピーチを練習する大野さん（名古屋市中東区の名東高）

11月22日（金）付中日新聞朝刊20面「県内版」（中日新聞社許諾済み）

11月18日（月）中京テレビ・CBC・メ〜テレの取材を受けました。

取材では、授業の様子（2L・3L合同のディスカッションストラテジー）と授業後の様子、そしてスピーチ練習の様子を撮影しました。



11月22日（金）いよいよ明日の本番に備え、最後の練習です。

お互いに発音や抑揚などを細かくチェックし合い、くり返し練習を行います。



明日は他校の高校生とともに、高校生として教育格差について提言を行います！

11月23日(土) G20当日 名古屋観光ホテル3階本会場

午前のセッション終了後、愛知県の高校生が29か国の外務大臣の前で「教育格差是正」についての提言を英語で行いました。スピーチは各校1名ずつ4名が分担し、大野さんが最後のパートを堂々とスピーチしました。各国の外務大臣からも称賛の声が上がりました！



サミットの会場内には警備上の理由で、愛知県知事、名古屋市長と12名の高校生のみ入場が許可されます。

この様子は11月24日(日)の中日新聞・朝日新聞・毎日新聞の朝刊各紙で紹介され、また11月25日(月)に放映された中京テレビ「キャッチ!」、CBC「チャント!」、メ〜テレ「アップ!」にて紹介されました！

外務省公式 web サイト（関連ページ）※「メディアの方へ」で当日の写真が閲覧できます。

<https://g20aichi-nagoya.go.jp/ja/about/content/presentation.html>

会合の様子（中京テレビ無料動画配信サービス chuun）

<https://chuun.ctv.co.jp/player/19025#>

放送の様子（中京テレビニュース）

https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20191126-00010003-sp_ctv-l23

翌日11月24日（日）付の各新聞朝刊でも紹介されました！

教育格差へ高校生の知恵

G20 愛知の4人が英語スピーチ

名古屋市で開かれたG20外相会合最終日の二十二日、公式行事の一つとして、愛知県の高校生が国際社会に向けた提言を英語で披露した。参加した四校十二人のメンバーが選んだテーマは「先進国と開発途上国の間に広がる教育格差の解消」。そのためにどうすべきか、代表の生徒四人が各国外相の前で堂々とスピーチした。

（森若奈、中崎裕） ②面参照



各国の外相らに向け、国際社会への提言を英語でスピーチする高校生ら。23日午後、名古屋市中区で

ネット授業、支援策の共有 提言

Let's share AICHI. "Love and Wisdom" (愛知、愛知を分かち合います) スピーチのトリを務めた名東高(名古屋市)二年の大野舞々さん(も)は、外相一人一人の目を見詰めながら呼び掛けた。「愛知」という言葉を使って約五分間の提言を締めくくると、大きな拍手が送られた。

文部科学省のスーパーグローバルハイスクールに指定されている時習館高(同県豊橋市)、中部大春日丘高(同県春日井市)、名古屋大教育学部付属高(名古屋市)の三校と、国際理解教育を推進している名東高が参加。外相会合の議題「持続可能な開発目標(SDGs)の実現」に沿った提言テーマを考えた。議論の中で「格差」が話題となり、中でもさまざまな格差に結び付きやすい「教育格差」にテーマを絞った。

この日、高校生たちは教育格差解消のため二つの施策を提言した。一つは途上国の教育不足を補う「インターネットを使った遠隔授業」、もう一つは各国の支援をより効果的にするための「支援情報のフィードバックと共有」。大野さんはその上で「教育格差をなくすことができたら、貧困やジェンダー(社会的な性差)などたくさん課題の解決につながる」と訴えた。

発表を終えた時習館高二年の伊東克洋さん(も)は「各国の外相がフレンドリーな感じで、緊張したが明るく発表することができた」と振り返り、中部大春日丘高二年の村井健さん(も)は「今までの支援になかったものを提案できた」と語った。名大付高二年の石川陽さん(も)は「G20に参加してただんど国際協力への意識が高まった」と話した。

茂木敏充外相は会合後の記者会見で「若者らしい斬新な提言だった。各国外相も熱心に耳を傾けていて、提言内容を含めて高い評価を得られたと受け止めている」と高校生たちをたたえた。

「教育格差 国際機関設け解決を」

愛知の高校生 G20会合で提言

世界中の子ともが小学校に通うには1800万人の教員が不足している。主要20カ国・地域（G20）外相会合で28日、愛知県内の高校生12人が教育格差についての提言を発表した。G20メンバー国と招待国の計29カ国の外相が提言を聞

き、拍手を送った。提言をまとめたのは、県立時習館高（豊橋市）、名古屋大教育学部付属高（名古屋千種区）、名古屋市立名東高（同市名東区）、私立中部大春日丘高（春日井市）の生徒12人。8月から議論を重ねて提言を作

成。各校の代表4人が交互に読み上げ、茂木敏充外相に提言書を手渡した。「教育格差が様々な格差に結びついている。各国外相を前に、時習館高2年の伊東克洋さんが問題提起。名大付高2年の石川陽

ら「先進国、途上国とむに教育格差はある」と指摘した。ユネスコの調査結果では、世界中の子ともが小学校に通うには、約1800万人の教員が足りないという。このため、十分な教育の質が担保されないなどの問題が心配される。中部大春日丘高2年の村井健さんは、問題の解決策として「遠隔授業」と「教育支援の情報共有」を提

案。名東高2年の大野舞夕さんが、これらの対策に取り組み国際機関の設置を呼びかけ、「教育格差をなくせたらたくさんさんの課題解決につながる」と訴えた。提言書を受け取った茂木外相は「若者らしい斬新な提言だ。各国の外相から高い評価を得られたと思う」と述べた。海外で10年以上暮らし、提言を英訳した村井さんは「生まれた所で、受けられる教育まで変わるのには不平等。提言を考えるにあたり、世界の教育を学んだ経験が今後に生かしたい」と話した。（江向彩世夏）



11月24日（日）付
朝日新聞朝刊31面
（朝日新聞承諾番号 19-4939）
朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。

「教育格差なくして」

県内高校生 各国外相らに提言

G20閉幕

招待国を含め29の国・地域が参加する主要20カ国・地域（G20）外相会合が閉幕した23日。会場となった名古屋観光ホテル（名古屋市中区）ではこの日、県内4校の高校生が世界から教育格差をなくすよう各国の外相らに提言し、会場から大きな拍手が起きた。提言を行ったのは県立時習館高、名古屋大教育学部付属高、中部大春日丘高、名古屋市立名東高の男女12人。

各校代表が1人ずつ、練習を重ねた英語でスピーチした。高校生は全世界の子どもたちが教育を受けられるには、教員が1800万人不足していると指摘。インターネットなどを利用した遠隔授業と、教育分野の情報共有を国際的に進めるため、専門機関の設置を提案。「教育によって世界中の子ともたち、大人たちの視野と可能性が広がり、一人一人が輝かしい未来に



G20外相会合で提言書を茂木敏充外相から3人に手渡す地元高校生。名古屋市中区で、兵藤公治撮影

11月24日（日）付毎日新聞朝刊19面
「あいち名古屋支局」
（毎日新聞社許諾済み）

12月23日(月) 二学期終業式

終業式後、大野さん、川上くん、宮尾さんより報告があり、当日の感想とともに実際に行った提言を英語で行いました。



なお、提言書のレプリカは職員玄関前の陳列ケースで見ることができます。

